カートンシーラー　Ｓ－１０２ＥＤＨ型　取扱説明書

～　目次　～

ページ

１．安全に関して
１－１．機械取扱上の注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
１－２．取扱説明書における用語及び記号の説明・・・・・・・・・・・・・４
１－３．機械のラベルの説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

２．機械の危険箇所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

３．機械主要部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

４．用語集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

５．日常点検
４－１．点検項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
４－２．点検チェックリスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

６．組立・設置方法
５－１．開梱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
５－２．点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
５－３．設置場所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
５－４．設置方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
５－５．組立方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
５－６．電源接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

７．主要仕様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

８．操作説明
８－１．操作上の注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
８－２．運転開始手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
８－３．運転終了手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
８－４．非常停止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
８－５．テープのセット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
８－６．高さ調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
８－７．幅調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
８－８．ダンボール箱の流し方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

９．調整・保守・点検について
９－１．作動板部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
★テープのセット方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
★テープリールの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
★カッターの位置調整及び交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・21
★折曲げ長さの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
９－２．搬送ベルト部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
★搬送ベルトの交換方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
★搬送ベルトのテンション調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
９－３．定期点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
９－４．トラブル発生時の点検・調整の手引き・・・・・・・・・・・・・25

10．添付資料
10－１．電気図面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
10－２．部品リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

11．保証・消耗部品・故障のご照会に関して ・・・・・・・・・・・・・・・・33

１．安全に関して

１－１．機械取扱上の注意事項

“安全上の注意事項”

本機を安全にご使用して頂くには、次の事項を厳守して頂く様お願いします。
守られなかった場合は、身体に損傷が及びます。

危険箇所	危険内容	作業上の注意
カッター （作動板部）	カッターの刃先が鋭く尖っており、指先・手等の身体が触れると切れます。	カッターを交換する，又はテープを通し替える時は、薄手の手袋をして手を保護して下さい。
搬送ベルト	機械運転時は、搬送ベルトが連続して回っており、ベルトに触れると手や衣服等を巻き込み危険です。	１）作業服について ①長袖のボタンは止めて下さい。 ②ネクタイは外して下さい。 ③上着の裾はズボンの内へ入れて下さい。 ④帽子を着用し、頭髪を保護願います。
		２）運転中は、機械（ベルト部分）に触れないで下さい。
		３）機械に触れる時は、必ず電源を切ってから行なって下さい。 ①テープを交換する時。 ②機械を調整する時。 ③機械を清掃する時。
漏電ﾌﾞﾚｰｶｰ 起動ボタン	電気が接続されており、接続部に触れると感電します。	１）部品交換時は、必ず電源を切ってから行なって下さい。
		２）濡れた手で操作しないで下さい。
		３）感電事故防止の為に、コンセントのアースが接地してある事を確認してから運転をして下さい。

その他、修理・点検時は、機械を運転状態で行なうと、挟み込み，巻き込まれ，感電等の危険がある為、下記の事を守って下さい。

①コンセントからプラグを抜く。
②時計・指輪等、引っかかる可能性がある物を身に付けない。
③専門知識を有する人が行なう。

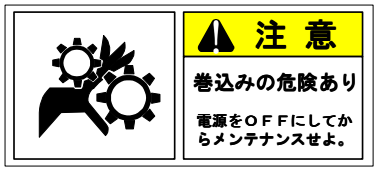
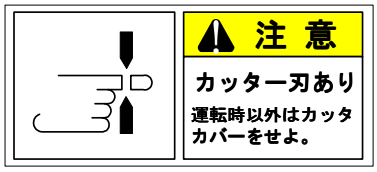
１－２．取扱説明書における用語及び記号の説明

本取扱説明書には、次の様な警告表示をしています。

（記号）	（定義）
	警告　これを守らないと死傷事故又は機械の故障につながります。
	警告　これを守らないと感電による死傷事故につながります。

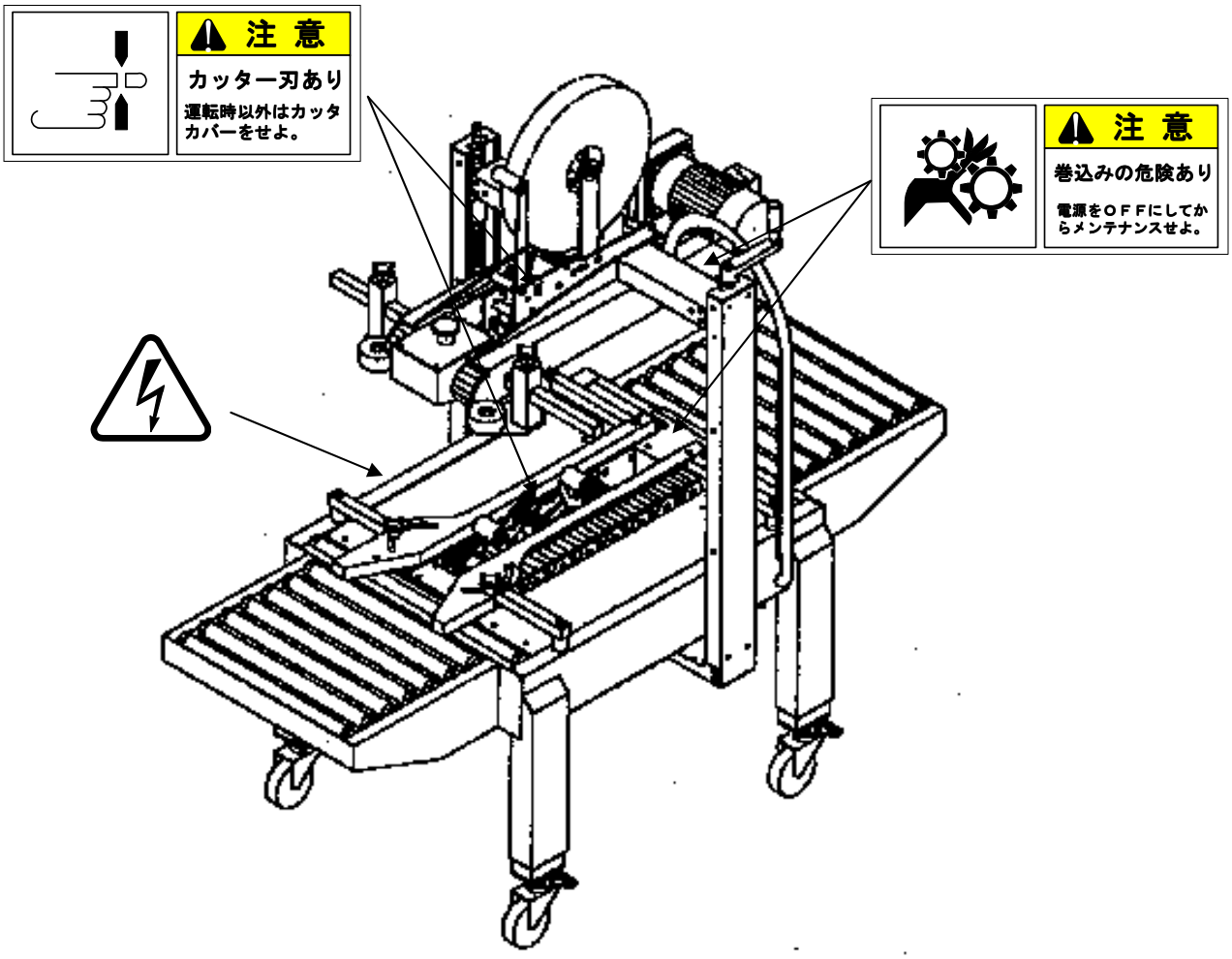
１－３．機械のラベルの説明

機械には、次の様なラベルが貼り付けてあります。

（ラベル）	（定義）
	電装品があり、感電する可能性があります。 感電すると重大な事故が発生します。
	回転物等に巻き込まれる可能性があり、巻き込まれると重大な事故が発生します。
	カッターがあります。切断・裂傷等の重大な事故が発生します。

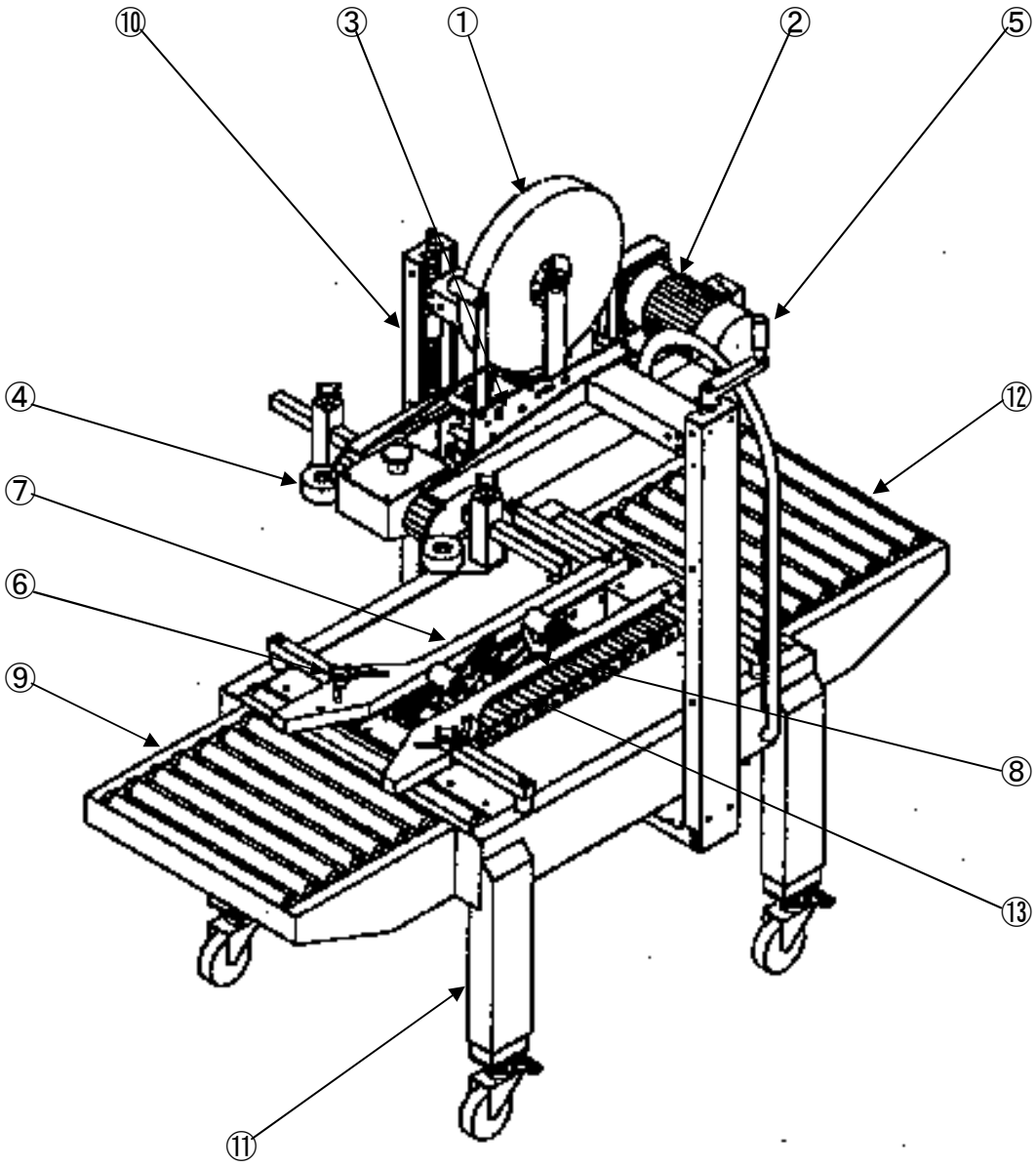
２．機械の危険箇所

機械には下図の箇所に、危険表示をしています。



機械を操作される時やメンテナンス時には、充分注意して下さい。

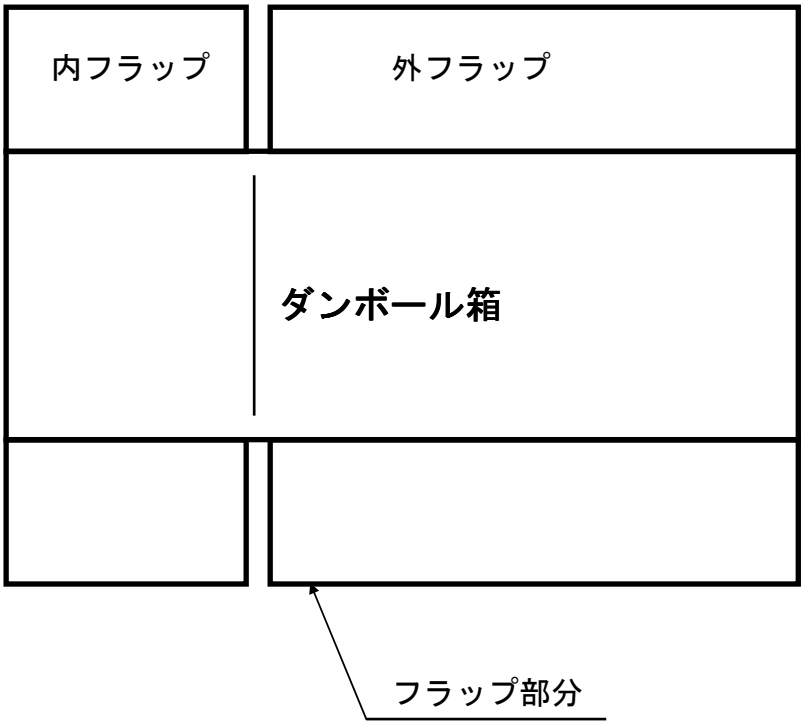
３．機械主要部の名称



① 粘着テープ（上貼り用）
② モーター
③ 上作動板（テーピングユニット）
④ 外フラップ開き防止ローラー
⑤ 高さ調整ハンドル
⑥ 固定ノブ（サイドガイド用）
⑦ サイドガイド
⑧ 下作動板（テーピングユニット）
⑨ 入口コンベア
⑩ 目盛り（高さ）
⑪ 脚
⑫ 出口コンベア
⑬ 搬送ベルト

４．用語集

・作動板・・・・テープを貼付け、カットする装置です。
（上の作動板を“上作動板”下の作動板を“下作動板”とします）
・フラップ・・・ダンボール箱上下面のフタにあたる部分です。



５．日常点検

清掃・点検を行なう時は、コンセントからプラグを抜き、作業を行なって下さい。
巻き込まれ，感電等の重大事故が発生します。

清掃・点検を行なう時は、カッターカバーを取付けて下さい。
カッターを取扱う場合は、必ず手袋等の保護具を使用して下さい。

４－１．点検項目

１）機械の清掃

機械上及び機械内のカートンの粉塵を掃除機で吸い取って下さい。

２）カッターの掃除

カッター刃先の付着物（糊粕等）を、シンナー等で拭き取って下さい。

３）非常停止ボタンの動作確認

次の要領で確認作業を行なって下さい。

①コンセントにプラグを差し込み、漏電ブレーカーを“ＯＮ”にし、機械を運転状態にします。（ベルトが起動）

②非常停止ボタンを押します。

③ベルトが停止すれば正常です。

※ベルトが停止しない場合、非常停止ボタンが故障しているか、配線が外れている為、機械を使用しないで下さい。

又この場合、漏電ブレーカーを“ＯＦＦ”にして修理を行なって下さい。

４）電線の損傷確認

電線の損傷を発見した場合、機械を使用しないで下さい。

又、この場合、電線を交換してからご使用下さい。

５）運転中の機械からの異常音確認

異常音が発生している場合、機械を使用しないで下さい。

又、この場合、原因を確認し、原因を取り除いてからご使用下さい。

※原因が解らない場合は、販売店にご相談下さい。

４－２．点検チェックリスト

点検確認にお使い下さい。（点検結果を記録しましょう）

項目 ＼ 日付	／	／	／	／	／	／	／
機械の清掃							
カッターの清掃							
非常停止の確認							
電線の確認							
異常音の確認							

６．組立・設置方法

⚠	機械をパレットから降ろす時は、機械に近付かないで下さい。 落下した場合、重大な事故が発生します。 又、フォークリフト等の運転は有資格者が行なって下さい。

５－１．開梱

１）ハサミやカッターで、バンドを切断して下さい。

２）外箱を取り除いて下さい。

※外箱は重い為、２名以上の作業となります。又、外箱を外して降ろす時は、周りに人がいない事を確認してから行なって下さい。

３）機械とパレットを固定しているバンドを切断して下さい。

４）フォークリフト，又はクレーンにより、機械をパレットから降ろして下さい。

５－２．点検

開梱終了後、次の点検を行なって下さい。

１）フレームや柱の曲がりがないか確認して下さい。

２）ボルト・ナットの緩み，落下がないか確認して下さい。

３）電装品の緩み，落下がないか確認して下さい。

４）付属品の確認をして下さい。（内容は 12 ページ“ｏ．付属品”参照）

※該当項目があった場合、又は付属品が無い場合は販売店にご連絡下さい。

５－３．設置場所

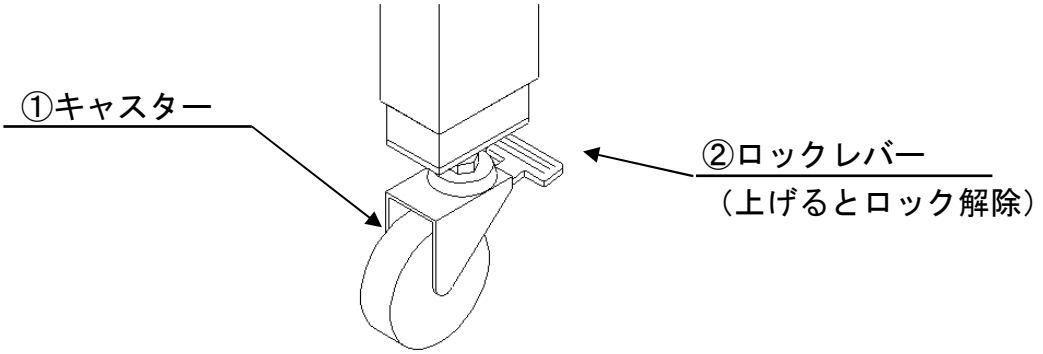
１）本機は屋内に設置して下さい。

２）床は水平で、凸凹の無い場所に設置して下さい。

３）水分・湿気・粉塵の多い場所は、設置しないで下さい。

５－４．設置方法

１）機械の脚にはキャスターが付いていますが、全てロック機構があります。搬入時はロックがかかっていますので、まずロックを解除して下さい。

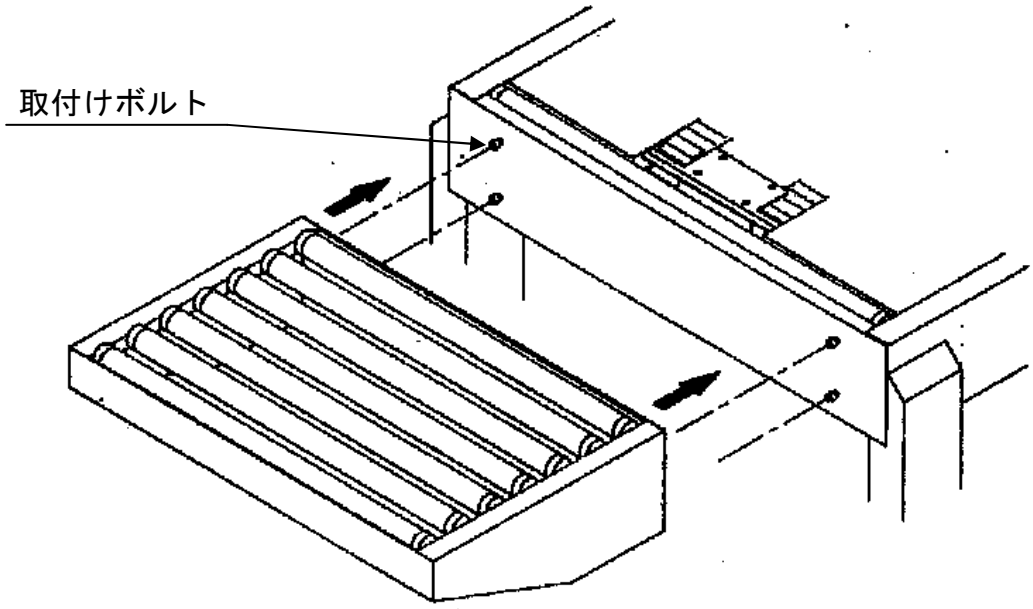


２）ロックを解除した後、設置場所まで移動して下さい。
３）設置場所に到着後、位置が決まりましたら全てのキャスターをロックしてブレーキをかけて下さい。（レバーを下げます）
４）パスラインの調整を行なう場合は、六角レンチにて脚のキャップボルトをゆるめ、上下に調整して下さい。

⚠	機械のパスラインを設定する場合、必ず上下左右均等に上げて下さい。片側ばかり上げていくと、機械のバランスが崩れ、横転など重大な事故が発生します。

５－５．組立方法

①付属の入口・出口コンベアを取り出して下さい。
（入口側と出口側のコンベアは同一品で、区別はありません）
②取付けボルトをゆるめ、コンベアを５ヶ所のボルトに差込ます。
③六角レンチで、５ヶ所のボルトを締め付け、コンベアを固定して下さい。



５－６．電源接続

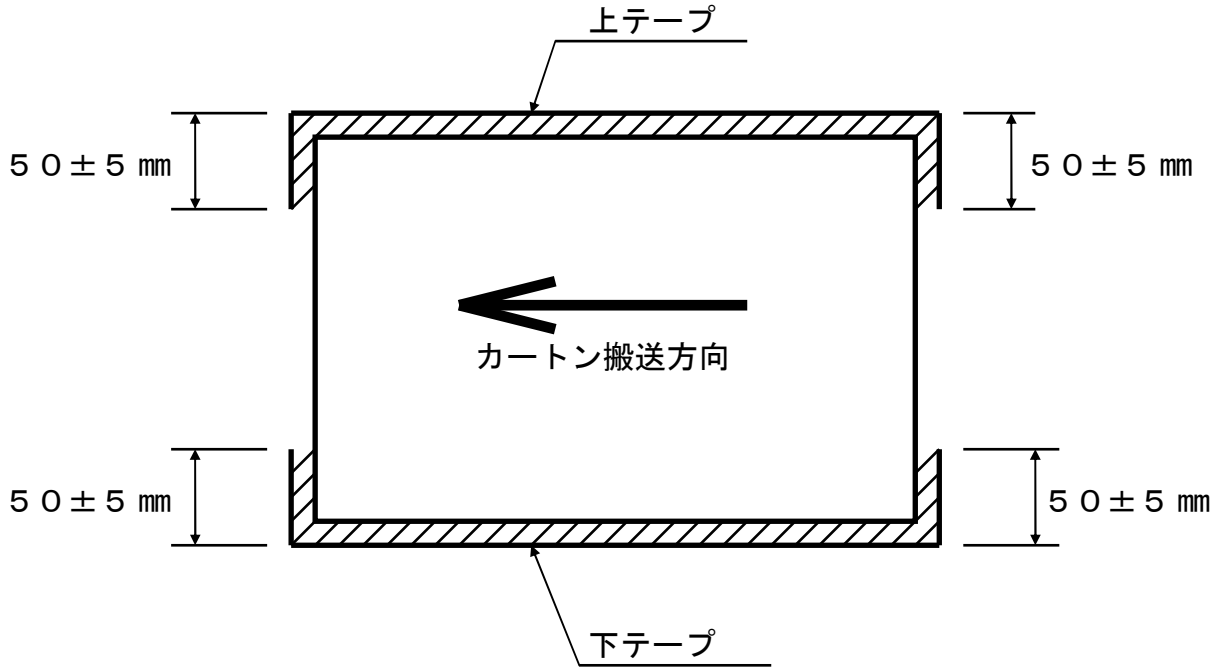
機械には電源コード（５ｍ）が付属されていますので、コンセントに差し込んで下さい。

⚠	感電防止のため、必ずアースをとって運転して下さい。 配線，接地されていない場合、感電等の重大事故が発生します。

７．主要仕様

ａ．装置概要	本機は、ダンボール箱のフラップを手で折り曲げて挿入すると、上下面ベルトで搬送し、粘着テープを自動シールする、半自動タイプのカートンシーラーです。
ｂ．型式	Ｓ－１０２ＥＤＨ
ｃ．機械寸法	（長さ）１６３７ ×（幅）７５４ ×（高さ）１４５０㎜
ｄ．機械重量	約１５５㎏
ｅ．パスライン高さ	６００～８００㎜（脚部スライドで調整可能）
ｆ．電源・電圧	ＡＣ１００Ｖ単相　　５０／６０Ｈｚ
ｇ．使用モーター容量	１８０Ｗ×２台
ｈ．処理カートン寸法	Ｗ（幅）　１５０　～　５００　㎜ Ｌ（長さ）　１５０　～　　㎜ Ｈ（高さ）　１００　～　５００　㎜ 但し、Ｌ＞Ｈとします。
ｉ．最大搬送重量	２０㎏
ｊ．処理能力	最大 ２５個／分・・６０Hz 時（コンベア速度２３ｍ／分） （５０Hz 時は最大２０個／分）
ｋ．テープの貼付切断	自動 但し、ダンボール箱の上面フラップを完全に折り込み、所定の位置まで挿入して下さい。
ｌ．使用テープ	テープ幅　５０㎜ ／ ３８㎜ 品種　No. ３７０１ｽｰﾊﾟｰ　No. ３７０３ｽｰﾊﾟｰ No. ３７０５ｽｰﾊﾟｰ No. ３５０１　No. ３５０３　No. ３５０５ No. ３３００　No. ３３０１　No. ３３０３ No. ３３０５　No. ３２００ クラフトテープ

ｍ．テープ貼付け寸法



注）±５ mm は、調整範囲ではなく、誤差の範囲を示します。

ｏ．付属品

No	付　属　品　名　称	員　数
①	取扱説明書	１部
②	カッター（予備品）	２枚
③	スパナ（8-10，11-13，14-17）	各１個
④	六角レンチ（Ｌレンチ）	１ set
⑤	＋ドライバー	１個
⑥	貼付けアーム用スプリング	２個
⑦	カッターアーム用スプリング	２個
⑧	テープリールスペーサー（３８ mm 用）	４個

８．操作説明

機械を操作する時は、次の事を必ず守って下さい。これを怠りますと、機械のトラブル原因となるばかりか、重大な事故が発生します。

８－１．操作上の注意事項

１）本機は、ダンボール箱の封緘作業以外の目的に使用しないで下さい。

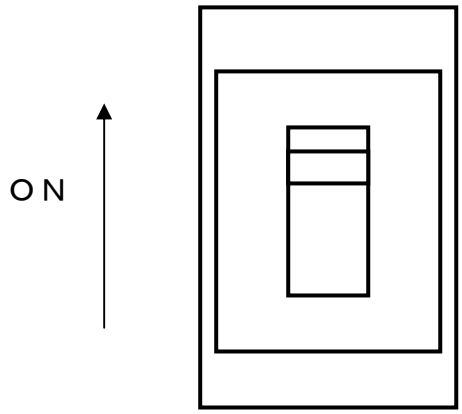
２）本機にダンボール箱を流す場合、上下面ベルトに手を巻き込まれない様にして下さい。

３）本機よりテープ貼りされたダンボール箱を取り出す時には、身体を機械より外の位置にて取り出して下さい。腕や指が機内に入ると、搬送ベルトに巻き込まれたり、上作動板に挟まれる可能性があります。

４）トラブルが発生したら、機械を停止させ、漏電ブレーカーを“ＯＦＦ”にしてから処理して下さい。

５）ダンボール箱内に製品が完全に詰まっていない場合は、箱の強度により正常にテープ貼りが行なえない時があります。その時は、ダンボール箱内に緩衝材やパット等を入れてから、機械に流して下さい。

８－２．運転開始手順



１）電源コードのプラグを、コンセントに差し込んで下さい。

２）漏電ブレーカーのスイッチレバーを押し上げて“ＯＮ”にして下さい。

３）起動ボタンを押して下さい。同ボタン横のランプが点灯し、搬送ベルトが起動します。

（注意）搬送ベルトが起動しない場合（運転状態にならない場合）非常停止ボタンが押された状態になっていないか、確認して下さい。
押された状態になっていると、運転状態にはなりません。

８－３．運転終了手順

１）停止ボタンを押して下さい。ランプが消灯し、搬送ベルトは停止します。

２）漏電ブレーカーのスイッチレバーを押し下げて“ＯＦＦ”にして下さい。

（注意）作業終了後は、必ず漏電ブレーカーを押し下げて、電源を切って下さい。

８－４．非常停止

機械運転中に、機械トラブルが発生した場合、非常停止ボタンを押し下さい。
搬送ベルトは、即停止します。
復帰させる時は、機内のダンボール箱を取り除き、右（矢印の方向）に回して下さい。押ボタンが手前に出て復帰します。
トラブルの原因究明を行なってから、運転を復帰して下さい。

８－５．テープのセット

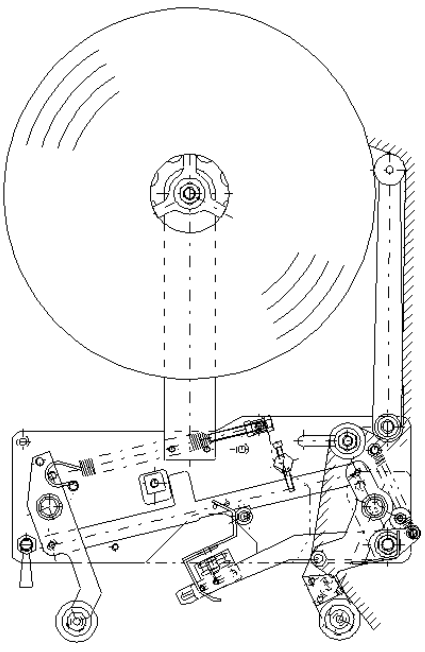
⚠	テープをセットする時は、機械を停止させ、漏電ブレーカーを“ＯＦＦ”にしてから行なって下さい。 これを怠りますと、巻き込まれ等の重大事故が発生します。

１）引出し方向に注意して、テープリールにテープをセットして下さい。
（機械のアーム部にもテープの通し方を表示しています）

２）下図の様にテープの粘着側に注意して、テープを通して下さい。
（詳細は 18 ページをご参照下さい。）

注）テープの通し方を間違えますと、テープが貼れなかったり、前・後の折曲げ長さが極端にバラ付いたりします。

３）テープを通した後、テープをカッターに押し当て、テープをカットして下さい。



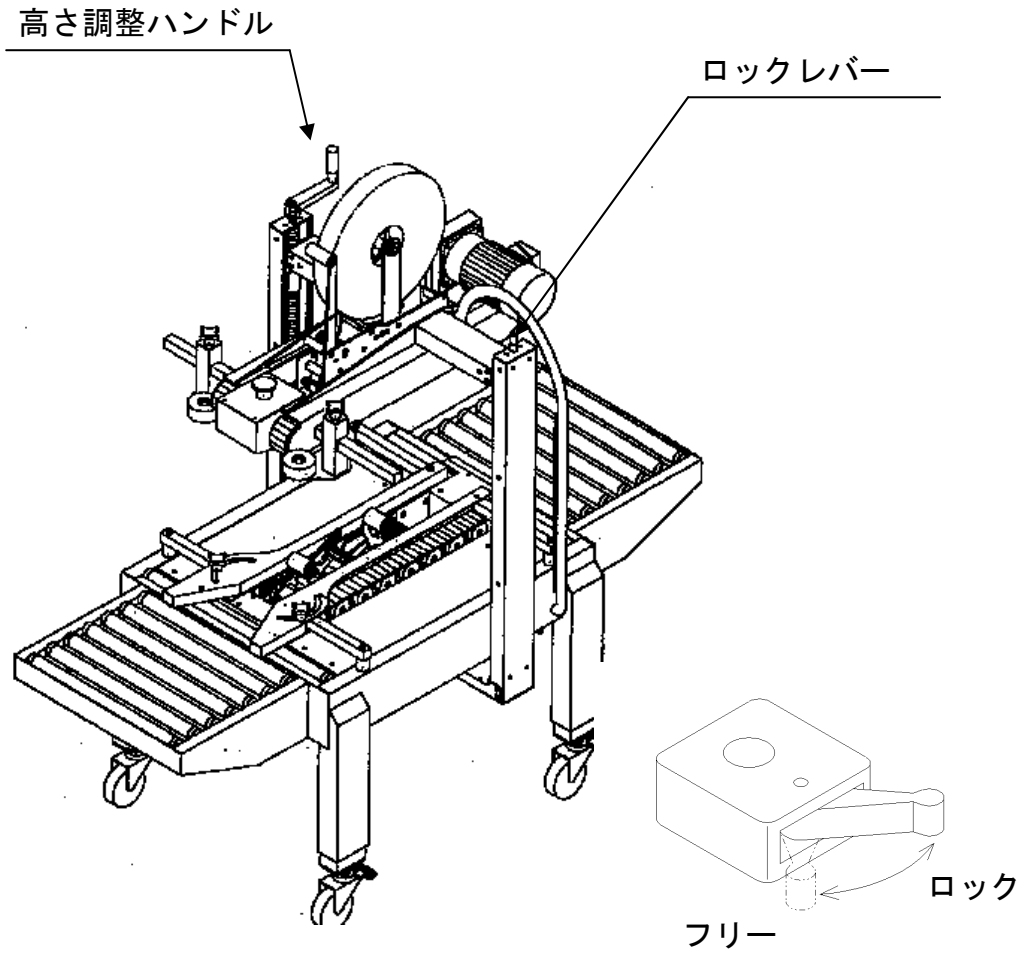
８－６．高さ調整

⚠	高さ調整をする時は、機械を停止させ、漏電ブレーカーを“ＯＦＦ”にしてから行なって下さい。 これを怠りますと、巻き込まれ等の重大事故が発生します。

高さ調整は、上面搬送ベルトがダンボール箱の上面に接触するように、高さ調整ハンドルを回して調整して下さい。ハンドルを右に回すと上昇します。

下限１００㎜～上限５００㎜の間で調整出来ます。

ダンボール箱が軽くて搬送しにくい時、上面ベルトを少し強めに、ダンボール箱に接触するように調整して下さい。

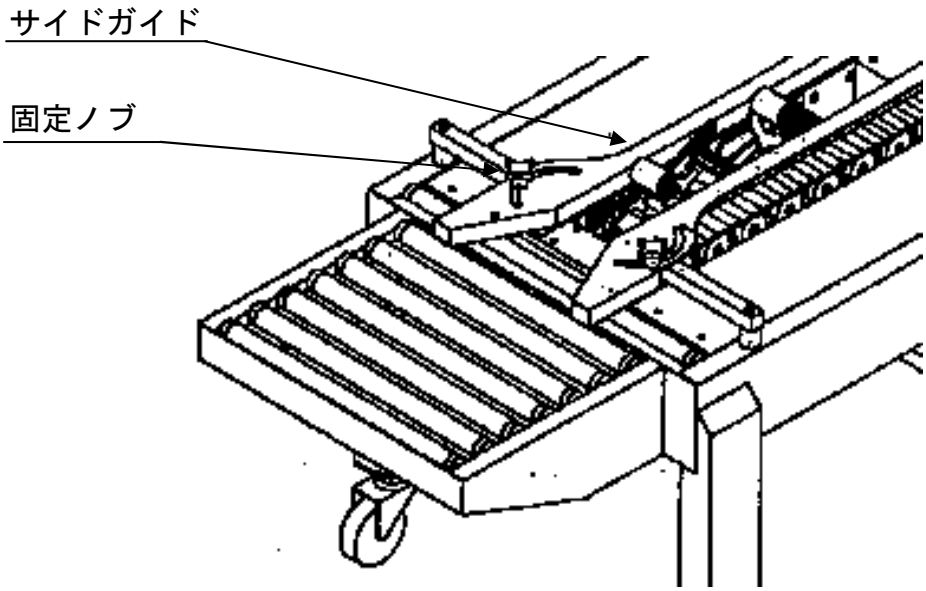


高さ調整にはロックレバーがありますので、調整時はロックレバーを“フリー”の位置にして下さい。調整後は、“ロック”の位置にして下さい。

８－７．幅調整

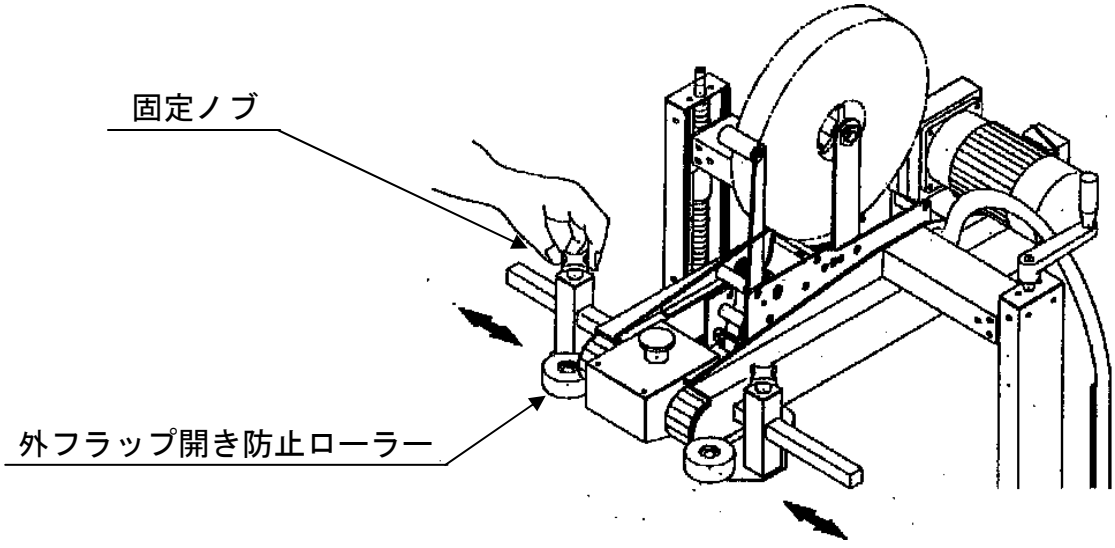
⚠	幅調整をする時は、機械を停止させ、漏電ブレーカーを“ＯＦＦ”にしてから行なって下さい。 これを怠りますと、巻き込まれ等の重大事故が発生します。

幅調整は、両サイドガイドの固定ノブをゆるめて、ダンボール箱を機械センターに置き、サイドガイドを軽く接触するように合わせてから、固定ノブをしっかりと締め付けて下さい。



次に、上面搬送ベルトの両サイドにある“外フラップ開き防止ローラー”の固定ノブをゆるめ、ローラーを手でスライドさせながら、ダンボール箱の幅に合わせ、固定ノブをしっかり締め付けて下さい。

幅　１５０㎜～５００㎜の間で調整出来ます。

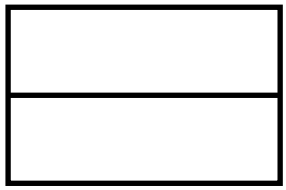


８－８．ダンボール箱の流し方

上フラップを折りこみ、サイドガイドに沿う様にダンボール箱を挿入して下さい。
上下の搬送ベルトにダンボール箱がかかると搬送しますので、手を離して下さい。

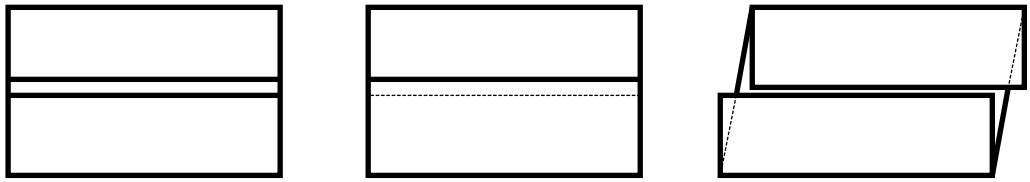
（注意）上フラップを折り込む時は、隙間，重なり，食い違いが無い様にして下さい。これらもテープ貼付け不良の原因になります。

（正しい例）



（ダンボール箱を上から見た図）

（悪い例）



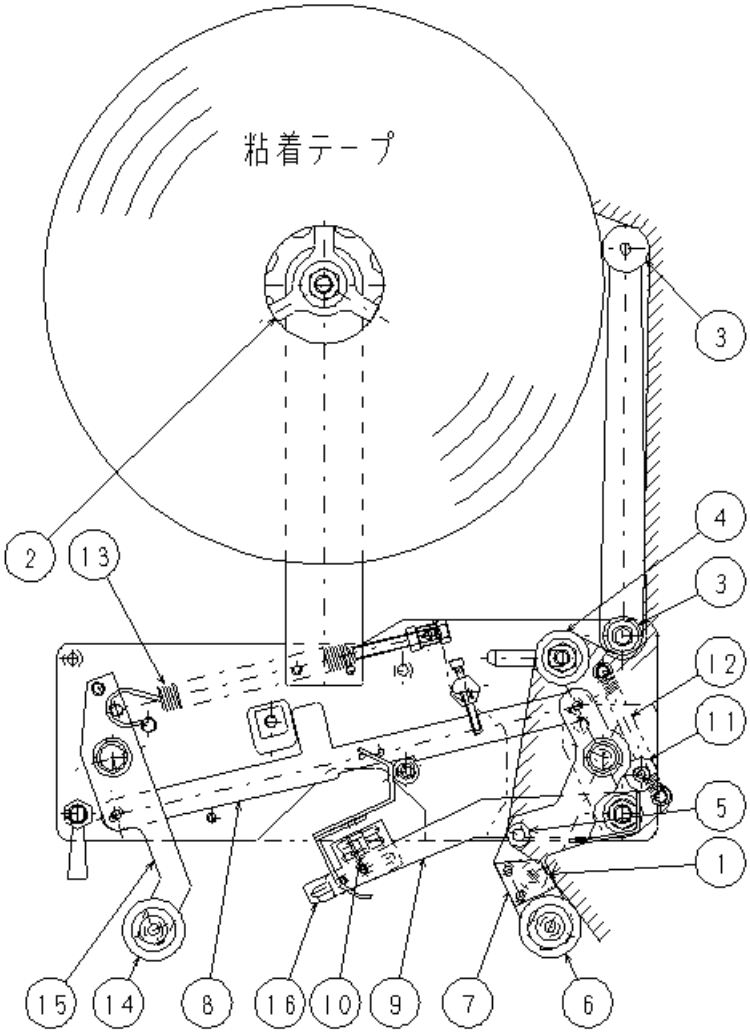
（隙間）　（重なり）　（食い違い）

※次のダンボール箱は、先のダンボール箱がサイドベルトから完全に搬出されてから供給して下さい。

９．調整・保守・点検について

保守・点検を行なう場合は必ず機械を停止させ、コンセントを抜いて行なって下さい。機械が動作したまま，又は電源が入ったまま行ないますと、重大な事故が発生します。

９－１．作動板部

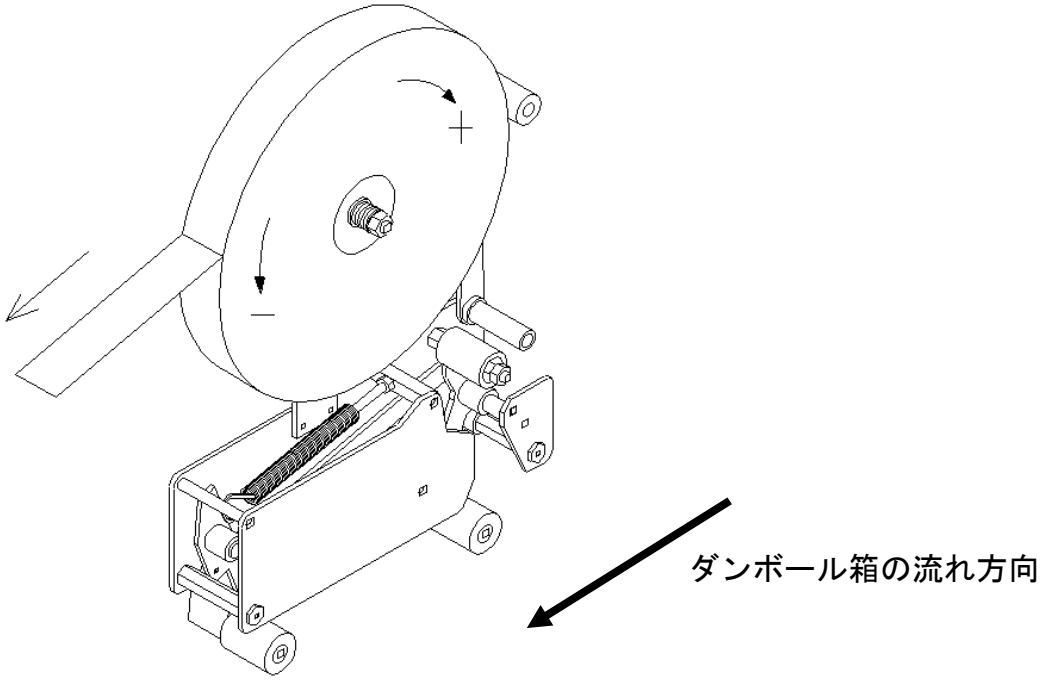


（部品名称）

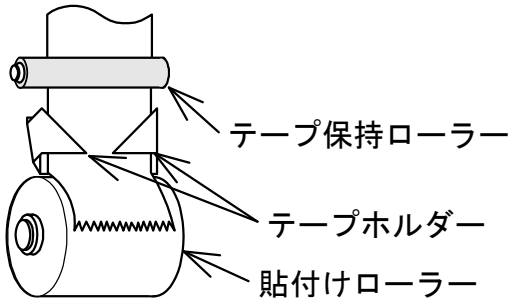
①テープホルダー
②テープリール
③ガイドローラー（黒）
④逆転防止ローラー（黄）
⑤テープ保持ローラー（黄）
⑥貼付けローラー
⑦貼付けアーム
⑧連結板
⑨カッターアーム
⑩カッター
⑪ストッパー（カッター用）
⑫スプリング（カッター用）
⑬スプリング（貼付けアーム用）
⑭後部押さえローラー
⑮後部押さえアーム
⑯アジャストレバー（後部長さ）

★テープのセット方法（18 ページの図参照）

ａ．粘着テープは、テープリール②へ粘着側に注意してセットして下さい。
テープを引っ張った時、上テープは－側に回転する様にセットして下さい。
下テープは反対に＋側となります。



ｂ．ガイドローラー③（２ヶ所）には、テープの背面を接触して下さい。
ｃ．逆転防止ローラー④には、テープの糊面を接触して下さい。
ｄ．テープ保持ローラー⑤には、テープの糊面を接触して下さい。
ｅ．テープホルダー①の間に、テープを通して下さい。

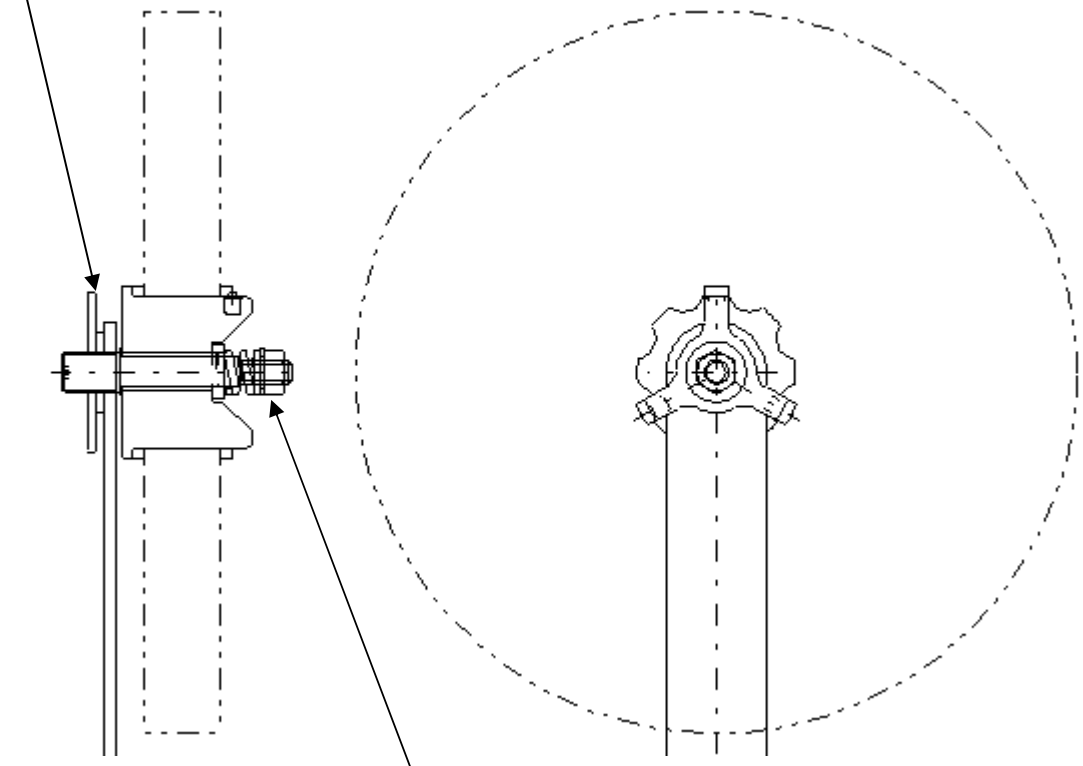


★テープリールの調整

⚠	工具は用途に合ったものを、正しく使用して下さい。間に合わせの工具，不適格な工具は使用しないで下さい。打撲・傷等の事故が発生します。

粘着テープのセンターと、ダンボール箱のセンターが合っていない時は、ロックナットを緩めてテープリールを左右に移動し、調整して下さい。
テープの巻き戻し力の調整は、ロックナットにて行なって下さい。
調整後は、ナットがロックする様にしっかり締め付けて下さい。

テープのセンターを調整する場合
（工具不要／手で回す）

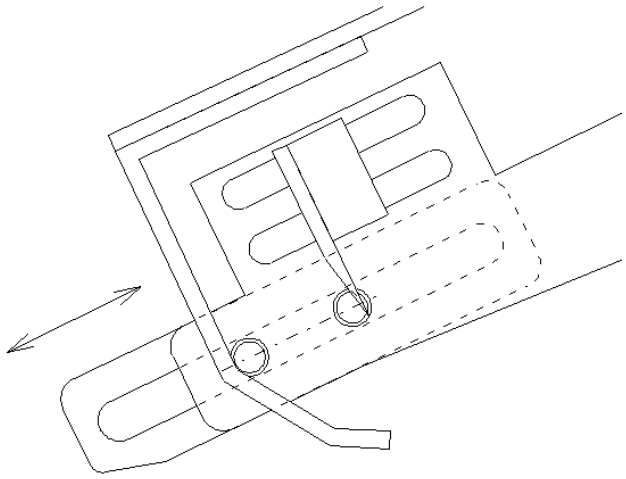


テープの巻き戻し力調整用
（締め込むと重くなる）

★カッターの位置調整及び交換

⚠	カッターの刃先は鋭利な為、付属のカッターカバーをカッターの刃先に取付け、手袋等の保護具を使用して下さい。これを守らないと、カッターによる裂傷事故が発生します。

カッターの先端は、下図の様にアジャストレバーより出ない様にして下さい。ダンボール箱を傷つけたり、カッターの破損，テープ貼り不良の原因となります。



注）カッターの刃先には、糊，ダンボール箱のくず等が次第に付着して粘着テープの切れ味が悪くなります。定期的にする様にして下さい。
注）カッターの刃先が丸くなって、粘着テープの切れ味が悪くなった時は新品と交換して下さい。
注）カッターを交換される時、カッターには向きがありますので、刃先が必ず上図の通りの向きになる様に取付けて下さい。
注）カッターを交換される時、カッターカバーに接触しない様にして下さい。

★折曲げ長さの調整

極端に長さ調整をする時は、前項（★貼付けローラー・後部押さえローラー位置調整）に従って、貼付けローラーの位置を先に調整して下さい。

※貼り始めの折曲げ長さの調整方法
- 長くする時は、逆転防止ローラー④を搬入側に移動して下さい。
- 短くする時は、逆転防止ローラー④を搬出側に移動して下さい。

※貼り終わりの折曲げ長さの調整方法
- 長くする時は、アジャストレバー⑯を搬出側に移動して下さい。
- 短くする時は、アジャストレバー⑯を搬入側に移動して下さい。

９－２．搬送ベルト部

⚠	搬送ベルトの交換，テンション調整を行なう場合は、必ず 機械を停止させ、コンセントからプラグを抜いて下さい。 これを怠りますと、巻き込まれ等、重大な事故が発生します。

★搬送ベルトの交換方法

搬送ベルトは、使用していくと徐々に表面のミゾが浅くなります。ミゾが浅くなると、ダンボール箱の搬送中にスリップが発生し、正常な貼付けが出来なくなります。こうなると、搬送ベルトの交換時期です。
交換する時は左右均等に摩耗していなくても、同時に交換して下さい。

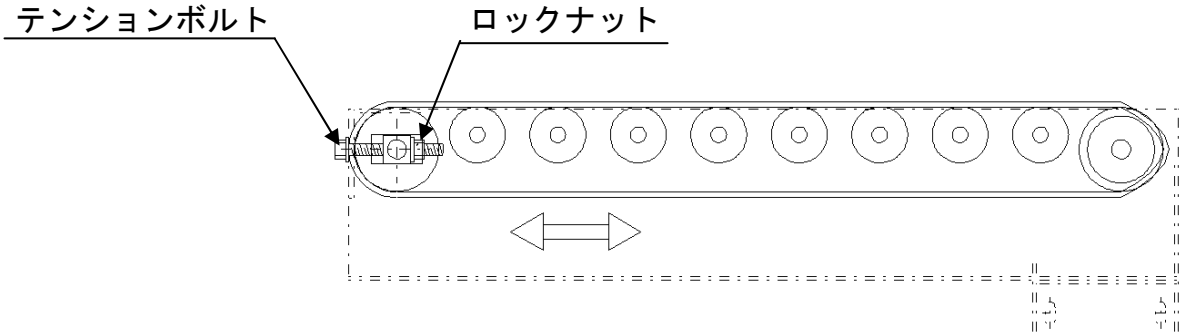
①古い搬送ベルトの取り外し方

（上搬送ベルトの場合）

非常停止ボタンが付いているプレートのボルトを外して下さい。
次に入口側のテンションボルトを回らない様に固定し、ロックナットを回してテンションを緩めます。すると、上搬送ベルトは外れます。

（下搬送ベルトの場合）

入口側下面プレートのボルトを外して下さい。
次に入口側のテンションボルトを回らない様に固定し、ロックナットを回してテンションを緩めます。すると、下搬送ベルトは外れます。



本図は下搬送ベルト部
（ロックナットが右側に移動する様に回すと緩みます）

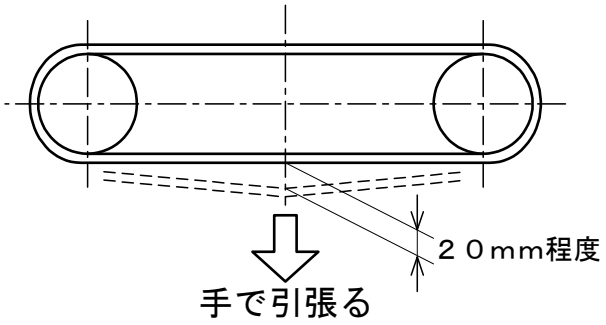
②新しい搬送ベルトの取付け方

新しいベルトを、プーリー間に掛けて下さい。次に取り外しと逆の要領で、入口側のテンションボルトを回わらない様に固定して、ロックナットを回して、搬送ベルトを張ります。
搬送ベルトの張り方は、次の“★搬送ベルトのテンション調整”を参考に行なって下さい。

★搬送ベルトのテンション調整

搬送ベルトは、張り過ぎるとベルトはすぐに伸びるため、下図を目安にテンション調整をして下さい。

テンションボルトは右回り（時計回り）に回すと、張られていきます。



９－３．定期点検

点検を行なう時は、コンセントからプラグを抜き、作業を行なって下さい。巻き込まれ，感電等の重大事故が発生します。

日常点検（４．日常点検参照）以外に、次の定期点検を行なって下さい。

★週点検

漏電ブレーカーの動作点検

（確認方法）

①漏電ブレーカーのスイッチレバーを上げ“ＯＮ”にする。

②テストボタンを押す。

③漏電ブレーカーのスイッチレバーが下がり“ＯＦＦ”になれば正常。

もし“ＯＦＦ”にならなかった場合は、機械の使用をやめ、漏電ブレーカーを交換して下さい。

★月点検

ａ．搬送ベルトの摩耗度点検

搬送ベルトの表面を確認し、凸部の摩耗を点検して下さい。

凸部が平らになっていたり、亀裂が入っていたりすれば交換して下さい。

★６ヶ月点検

ａ．ボルト・ナットの増し締め

機械全体のボルト・ナットの増し締めを行なって下さい。

ｂ．ネジ部へのグリスアップ

昇降ネジ部の古いグリスを拭い、新しくグリスを塗布して下さい。

ｃ．絶縁測定

ｄ．配線の損傷チェック

機械内の配線の損傷が無いか、確認して下さい。

９－４．トラブル発生時の点検・調整の手引き

機械の点検を行なう場合は必ず機械を停止させ、漏電ブレーカーを切って行なって下さい。機械が動作したまま，又は電源が入ったまま行ないますと、重大な事故が発生します。

No	現　象	点　検	原　因	調 整・処 置
1	漏電ブレーカーを“ＯＮ”にしてもすぐ“ＯＦＦ”になる。	①運転ボタンに水が水がかかっている。	短絡，又は漏電により同ブレーカーが作動している	水を除去し、乾燥させる。 注）機械には絶対に水がかからない様にして下さい。
		②モーター，又はモーター線とのコネクター部に水がかかっている。		
		③断線箇所があり、機械部分に接触している。	漏電により同ブレーカーが作動している。	断線箇所を修理する。
		④モーターの絶縁が低下している。		モーターの配線を外して、漏電ブレーカーを“ＯＮ”にし“ＯＦＦ”しなければモーターの故障となり、モーターの交換が必要。
		⑤他に異常が見られない。	漏電ブレーカーの故障。	漏電ブレーカーの交換。
2	非常停止ボタンを押しても上下面ベルトが停止しない。	非常停止ボタンは確実に押されている。	非常停止ボタンの故障。	非常停止ボタンの交換。
3	搬送ベルトが起動しない。	①搬送ベルト駆動用プーリーも回転しない。	①モーターに AC100V が通電していればモーターの故障。	モーターの交換。
			②モーターに AC100V が通電していなければコンデンサーの故障，又は断線。	コンデンサーの交換，又は断線の修理。

No	現　象	点　検	原　因	調 整・処 置
		②搬送ベルト駆動プーリーは回転しており、搬送ベルトがスリップしている。	搬送ベルトの張りが弱い。	ベルトのテンションを調整する。（強くする）
4	搬送ベルトでカートンを挟んでいるがダンボール箱を搬送しない。	①搬送ベルトが走行しない。	搬送ベルトの張りが弱い。	ベルトのテンションを調整する。（強くする）
		②搬送ベルトは走行しているが、ダンボール箱と搬送ベルトがスリップしている。	①上作動板ユニットの高さ設定が高く上下で挟み込めていない。（挟む力が弱い）	高さの設定を再調整する。
			②搬送ベルトの摩耗が激しく、寿命がきている。	搬送ベルトを交換する。
			③ダンボール箱上面が盛り上がっている。	ダンボール箱上面の盛り上がりを極力無くし、平坦にして下さい。
			④内容物が少なく、搬送ベルトで挟んだ時、ダンボール箱上下面がへこむ	緩衝材などを入れるか、箱サイズを小さくし、カートン上下面がへこまない様にして下さい。
5	ダンボール箱の前面にテープが貼り付かない。	①テープの通し方が間違っている。（糊面が逆になっている。etc）		“テープのセット方法”に基づき、正しく通しなおす。
		②テープ保持ローラー、又は逆転防止ローラー等の回転が極端に重いか全く回転しない。		重いローラー内に注油、又はローラーを交換する。

No	現　象	点　検	原　因	調 整・処 置
6	テープの貼付けセンターがずれている。	①テープのセット不良。		テープをテープリールに完全に押し込む。
		②テープと作動板のセンターズレ。		テープリールの位置を調整し、センターを合わせる。
		③テープの側面が変形によりタケノコ状になっている。		正常なテープに交換して下さい。
		④サイドガイドと作動板のセンターズレ。		ターンバックルの調整をして下さい。
7	貼り付けたテープにシワが入る。	ダンボール箱と上作動板の下面とは接触している。	①ダンボール箱の内容物が少なく、上フラップが極端に落ち込む。	ダンボール箱内に緩衝材等を入れるか、ダンボール箱の高さを低くし、上面フラップが落ち込まない様にする。
			②ダンボール箱の内容物が多い為上面フラップが盛り上がっている。	ダンボール箱の高さを高くして、上面フラップが平らになる様、ダンボール箱を変更して下さい。
8	テープが蛇行する。	①ダンボール箱を機械センターから極端にズレて供給し、ダンボール箱が斜めに搬送される。		機械のセンターに合わせてダンボール箱を供給して下さい。
		②テープの側面が変形により、不揃いになっている。		正常なテープに交換して下さい。
		③外部の力によりリールプレートが曲がり、テープリールの軸芯が斜めになっている。		リールプレートを真っ直ぐに修理するか交換して下さい。

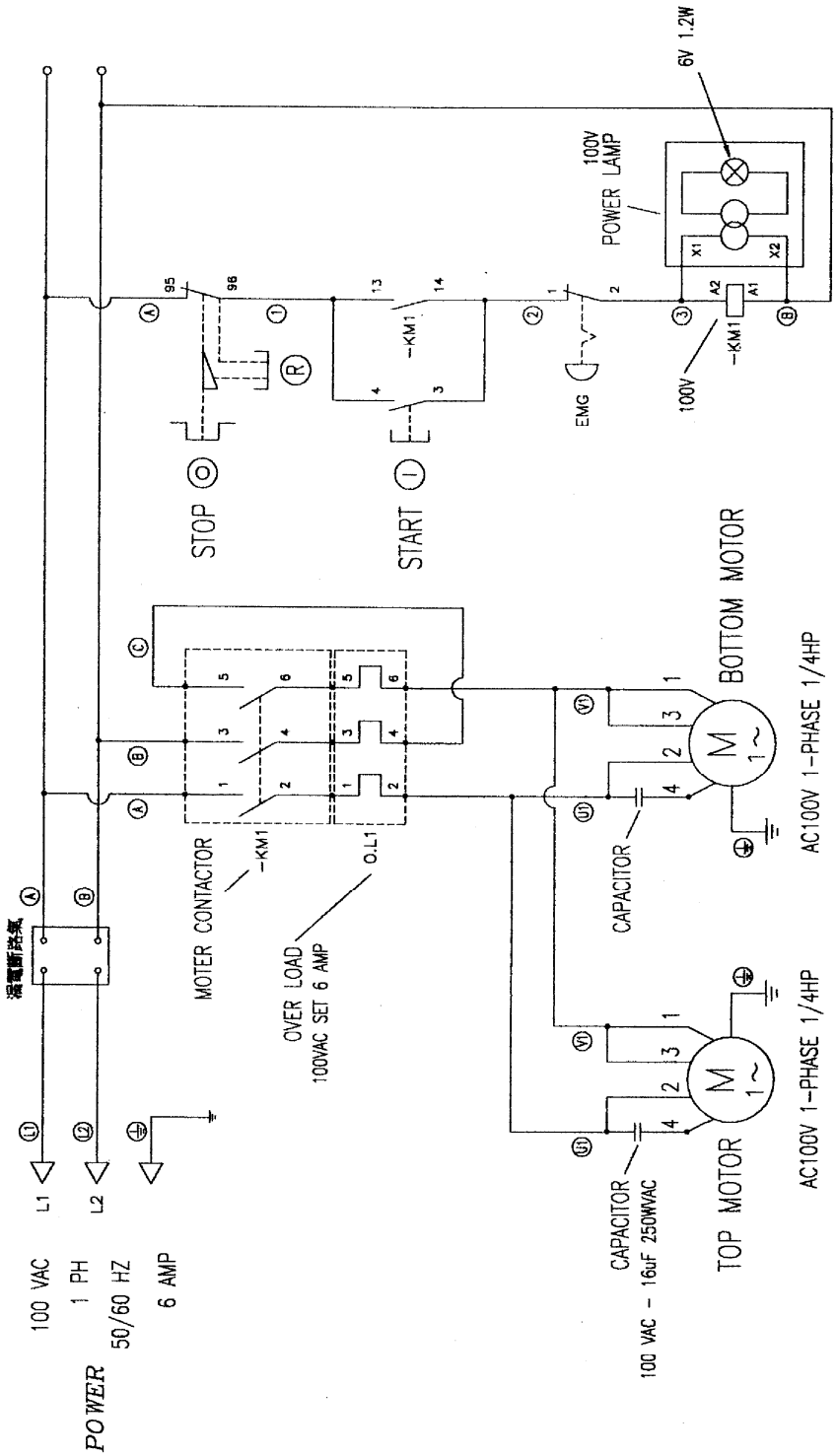
No	現　象	点　検	原　因	調 整・処 置
9	テープ貼付け中にテープが切れる。	①カッターではなくテープ自身で切れている。	①テープを通している各ローラーの回転が異常に重く、テープが伸びて切れる。	重いローラー内に注油、又はローラーを交換する。
			②テープリールのブレーキが極端に強い。	ブレーキを緩める。
		②カッターで切れている。	カッターの取付け高さ不良で、アジャストレバーより刃が出ている。	アジャストレバーより刃が出ない様に調整する。
10	テープが切れない	①カッターがアジャストレバー面より上に取付け過ぎている、又はカッターを真っ直ぐに取付けている。		カッターの取付け位置，取付け角度を再調整する。
		②カッター用引張りバネの破損。		引張りバネの交換。
		③カッターの刃先に糊が付着している。		シンナー等で清掃。
		④カッターの刃先が摩耗、又は破損している。		カッターの交換。
		⑤テープの繰出しが軽い。		テープリールのブレーキを軽くする。
11	テープの折曲げ長さが前後で違う	①前側が短い。	①テープの通し方が間違っている。	“テープのセット方法”に基づき、正しく通しなおす。
			②カッターの位置調整不良。	カッター取付けバーを押さえローラー側に移動調整する。
			③逆転防止ローラーが故障しており逆転する。	逆転防止ローラーの交換。

No	現　象	点　検	原　因	調 整・処 置
		②前側が長い。	①テープの通し方が間違っている。	“テープのセット方法”に基づき、正しく通しなおす。
			②カッターの位置調整不良。	カッター取付けバー⑳を貼付けローラー⑦側に移動調整する。
			③テープ切断後、貼付けアームが下降する時に、逆転防止ローラーが正転する。	逆転防止ローラーのブレーキを強く調整する。
			④テープリールのブレーキが弱い。	ブレーキを強くする。
			⑤テープ保持ローラーが回転しない	テープ保持ローラーの交換。
			⑥テープホルダーの変形によりテープの糊面がくっついている。	テープホルダーの交換。
		③後側が短い。	アジャストレバーの位置調整不良	アジャストレバーを押さえローラー側に移動調整する。
		④後側が長い。		アジャストレバーを貼付けローラー側に移動調整する。
12	テープ後部の折曲げが出来ない。又は､外フラップが浮いてテープ貼りしている。	①押さえローラーが引っ込んだ状態で戻らない。又は、動きが悪い。	①貼付けアーム用引張りバネが破損	同バネを交換する。
			②押さえゴムローラーの動作がスムーズでない。	回転部に注油する。
		②外フラップがダンボール箱後面より飛び出している。		カートン供給時に上面フラップがズレて飛び出さない様注意して下さい。

No	現　象	点　検	原　因	調 整・処 置
13	外フラップ前端がめくれあがる。	①外フラップがダンボール箱前面より飛び出している。		カートン供給時に上面フラップがズレて飛び出さない様注意して下さい。
		②貼付けローラーが、ダンボール箱前面に当った際、前面が引っ込み外フラップが飛び出す。 ダンボールの材質が軟弱なものは調整の範囲でめくれが無くならない場合があります。フルートがB段以下の場合は、緩衝材を入れるか、ダンボール箱の強度を上げる変更をお願いします。		①貼付けローラー用引張りバネの固定ボルトの位置を変更し、引張り力を弱くする。 ②ダンボール箱前部に緩衝材を入れるか、ダンボール箱長さを短くし前面が引っ込まない様にする。
14	テープの押さえが不充分で、浮いているところがある。	①ダンボール箱の天底面が極端に盛り上がっている。	押さえゴムローラーが、ダンボール箱上面に密着しない。	ダンボール箱を大きくし貼付け面を極力平らにする。
		②内容物が少なく、天面の外フラップが落ち込む。		ダンボール箱内に緩衝材等を入れるか、ダンボール箱の高さを低くし、上面フラップが落ち込まない様にする。

10. 添付資料

10－１. 電気図面



10－２．部品リスト

部品のご発注時に、参考にして下さい。

★消耗部品

No	品　名	規格	耐久年数（参考）
①	カッター		約３ヶ月
②	ゴムロール		約６ヶ月
③	スプリング	貼付けアーム用	約１年
⑤	スプリング	カッターアーム用	約１年
⑥	搬送ベルト		約１年

※耐久年数は参考値であり、保証値ではありません。使用条件、使用頻度により、耐久年数は変ってきます。

★各部部品リスト

消耗部品以外のご発注、問合せにつきましては、本文最終ページに付属しています“PARTS　LIST”を参照して下さい。

11. 保証・消耗部品・故障のご照会に関して

①保証期間

本機の保証期間は、製作者の責に属すべき事項に限定し、納入後６ヶ月です。この間に、材質・設計又は製作上の不備に原因して故障が生じた場合は、無償にて修理又は改造します。

但し、消耗品は保証期間内でも有償です。

②保証期間経過後の故障・修理に関して

保証期間後の故障・修理に関しては、有償にて対応させて頂きます。

	項　目	金　額
①	基本料金	販売店へご確認下さい
②	作業工賃	販売店へご確認下さい
③	宿 泊 費	販売店へご確認下さい
④	交 通 費	実費請求
⑤	部 品 代	交換部品の実費請求

※作業工賃は、訪問にかかる移動時間も含まれます。

③消耗部品，補修部品，故障時のご照会に関して

消耗部品、補修部品のご注文、及び機械に不具合・故障が生じました場合は、販売店，日東電工ＣＳシステム（株）の営業所，或いは日東電工ＣＳシステムニトマチック受注センターへご連絡下さい

④その他

本機は国内仕様につき、外国での使用に関しては一切の保証は致しません。

（取扱販売店）